



インテリア計画研究室

Interior Planning Lab.

山本 麻子

YAMAMOTO, Asako / Associate Professor

メイド インフジイデラ

Made in Fujiidera

2019年に世界遺産登録された古市古墳群は私の地元、藤井寺市に位置している。

古市古墳群には45基の古墳があり、そのうち28基が藤井寺市に属している。これらの古墳は、市内に多くある寺院や神社とともに歴史的な風景を形成している。

また、ここ半世紀の都市化により、住宅や高速道路が古墳と共存し、現代と古代が交じり合った個性ある異世界のような街並みが生まれた。

私は各古墳の個性を活かした焼き窯空間を提案する。各古墳の周辺住民はその焼き窯空間で埴輪を焼くことができ、それぞれの古墳が周辺環境を表した個性ある雰囲気を醸し出す。

現代で埴輪を制作することで、地域コミュニティの活性化を促進し、同時に埴輪は遠い未来、このまちの風景と行いを未来に残す遺物となる。

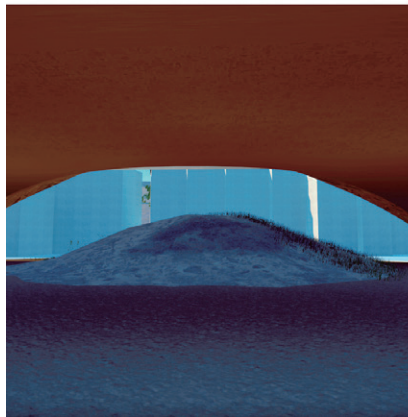
この取り組みは類例のない観光資源となり、古市古墳群の魅力を引き立てる。



審査会賞
(建築部門 第2位)

狩野 英斗

KANO, Hideto



集郷住宅 河内長野市滝畑地区における新たな高齢者コミュニティの提案

Housing complex: A proposal for a new elderly community in the Takihata district of Kawachinagano City



大阪府河内長野市に位置する滝畑地区。穏やかな自然環境と都会への利便性の両方を兼ね備えた特異な土地である。しかし、若者の流出や高齢化、空き家問題といった農山村地域の典型的な問題がこの地域でも顕著化している。

そこでこの地に、高齢者を主な対象とした集合住宅を提案する。歴史的な価値を大切にしつつ、現代の生活様式や機能性を融合させ、滝畑地区固有の文化財や景観との調和を重視した住環境を構築する。そして住居の他に、共同農園やシェアキッチンなどの施設を設置し、高齢者の身体活動の促進や住民同士の交流の活発化を目指す。

持続可能なコミュニティを創出することで、滝畑地区の未来へと繋げる。

佐川 椎菜
SAGAWA, Shina



地元市民のためのサードプレイス 柏原市ワーキングカフェ計画

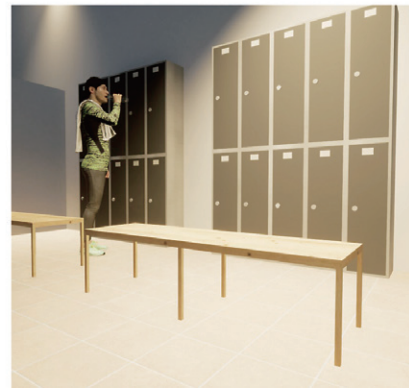
Third place for local citizens: Kashiwara City working cafe project

柏原市は大阪の都心部から20kmほどの距離に位置しているながら、市域の3分の2を山が占め、中央部を大和川が流れる自然環境に恵まれたまちである。また、病院やスーパーが充実していることから、住みやすさを感じられる。一方、大型商業施設や有名なレジャー施設がないため、若者たちは市外へ出て活動することが多い。そんな柏原市に住みやすさ以上のものを提供できないだろうか。

老若男女問わず気軽につろぐことができ、勉強やワーキング目的でも利用できるカフェの設置、敷地周辺の河川敷で体を動かす人たちの拠点となる更衣室やシャワールームを備えた施設の設置など、柏原市民にとって新たな居場所となる空間を提案する。



佐藤 希美
SATO, Nozomi



通りは場と共存する 子育て世帯の増加による星田駅前商店街再生計画

The street coexists with occasions: A revitalization plan for Hoshida Station shopping district due to the increase in child-rearing households



古くから商売の場としてだけでなく、祭りの開催や地域コミュニティの形成の場としても広く愛されていた商店街。しかしながら、高齢化問題やEC産業の拡大などが進む現代の日本において、衰退の一步をたどるケースが多く見られる。

大阪府交野市の南西部、星田駅前商店街でも店舗数の減少や地域住民の集まる機会が無くなってきていることなどがみられ、年々衰退を繰り返している。

かつては駄菓子屋や本屋などが立ち並び、子どもから高齢者まで多くの住民たちが集まり、活気づいた場となっていた。

星田の現状から商店街をただの通りとしてだけでなく、ここに集う場となるように提案を行う。

楽しそうに遊ぶ子どもの笑顔、商店街を歩き満足そうな人々の表情、地域の人々と交流を交わす人々の声、これらが重なりあうことで地域の活気へと変わっていくだろう。

篠田 友希
SHINODA, Yuki



人と馬 共に生きる 帯広市につくる引退馬のリトリートセンター

People and horses live together: A retreat center for retired horses in Obihiro city

現在日本の競馬では、年間7000頭ものサラブレッドが殺処分になっている。この現状を解決するため、馬の魅力伝える施設を建てることを提案する。

ここでは、引退場の養老施設や乗馬、ホースセラピー、馬糞を用いた畑などを提案する。敷地である、帯広市の緑ヶ丘公園は、動物園や植物園、美術館、記念館などがあり、芝生や木が多くある自然や観光施設などに囲まれた場所である。普段から散歩の道に使う人、パークゴルフをする人たちで、交流の合う場所にもなっている。動物園には年間17万もの人が来ます。それらの人たちに馬の魅力を伝わり、その人たちからも伝わるようになる。

そして、個人や団体で馬と一緒に暮らしたい人が馬の引き取り、預託するといい好循環が生まれる。馬と暮らすようになり共存の良さを知り、人の暮らしが豊かになる。



前田 和輝

MAEDA, Kazuki



島旅ヴィスタ 魅力あふれる複合宿泊施設で観光と移住を促進

Island Trip Vistas: An attractive lodging complex to promote tourism and immigration



自然豊かで、多くの魅力的な観光地がある小豆島。しかし、年々観光客は減少し、島の人口も高齢化が進み減少傾向にある。

そんな小豆島を盛り上げ、さらに観光客を増やしたいと考え、美しい海と山に囲まれたこの土地に複合宿泊施設を提案する。

この施設には、小豆島に観光として宿泊するホテルと小豆島に移住を考えている人など長期滞在ができるホテルがあり、さらにマルシェや島の特産物を使ったレストランやカフェなどの商業施設も併設されている。

この複合宿泊施設は、小豆島の自然美を最大限に活かして、観光客だけでなく地元の人々とも交流できる拠点となる。持続可能な観光と地域振興を目指し、小豆島の魅力を幅広く伝えていくことで、島の未来に新たな活力をもたらすことができるだろう。

松田 千穂里
MATSUDA, Chihori



巡礼旅の憩い場 ～遍路文化の継承と八日市護国町並分散型ホテル計画～

Resting place for pilgrim travelers: Inheritance of pilgrimage culture and a decentralized hotel project in Yokaichi Gokoku Machi

この設計はお遍路人口を増やすための建築である。

お遍路とは、弘法大師が修行した場所をたどり人間の煩悩を消して心を清めるとされており、四国八十八ヶ所のお寺をお参りする旅のことを指す。

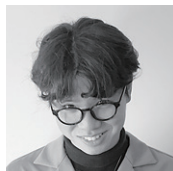
しかし、コロナ禍や宗教離れなどにより大幅に減少し、お遍路文化の衰退が進んでいる。

この文化を後世に伝えていく方法はないだろうか。

海外の巡礼ブームを背景に四国お遍路に挑戦する外国人お遍路さんは年々増加している。

かつて和紙と木蠟の集散地として繁栄した八日市護国地区は伝統的な町家群としての面影が残っており、外国人の観光客にとって人気のスポットとなっている。

その地にお遍路文化と地域の問題を結び付けた継承ができるような提案を計画していく。



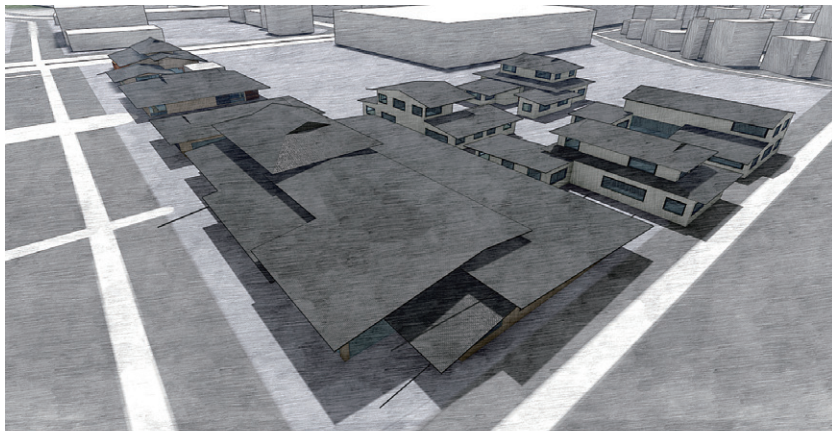
三好 史晃

MIYOSHI, Fumiaki



有終の居所 —食で三田をニュータウンからリタイアメントコミュニティへ—

One's final abode: Food transforms Sanda from new town to retirement community



今回は高齢化が著しい三田市を取り上げ、アメリカのリタイアメントコミュニティのような高齢化を地域にとってポジティブにとらえられるような仕掛けをつくる。まずはこれからも増える介護難民を予防するため、アクティブシニアの数が増えるような施設を提案する。

そのためのアクティブシニアを増やす仕組みとして、高齢者の関心が最も高い「食」に注目した。施設はデイサービスとサービス付き高齢者住宅にフードコートとシェアキッチン併設したものとなっている。

フードコートを取り入れることで高齢者施設の職員の負担を減らす。さらに食事のバラエティーが増えることで食事の時間を一日の楽しみにできるようにすることを目的としている。また、フードコートで高齢者の雇用の場を提供することで生きがい就労の推進している。

この施設をきっかけとして高齢化が進む地域の新たな可能性を見つけることを期待している。

インテリア部門賞

村上 夏泉

MURAKAMI, Natsuki



個性豊かな未来の住まい 一戸一物語、新しい暮らしの可能性を発見する

Future residence rich in individuality: One story for one house, for discovering new living possibilities

与えられた空間にヒトが合わせるのではなく、これからは空間がヒトの個性に合わせる時代ではないだろうか...

現代社会において、『多様性』や『個性』と言う言葉をよく耳にする。

ヒトの生活において必要不可欠な住居は、ヒトが多様であるようにそれぞれの居住空間も多様で個性豊かな人間性の表出の場でありたい。

しかし、集合住宅は不特定多数の居住者を対象に供給される住宅であるため個性を求めることが容易ではない。

そこで、ライフスタイルに多様性をみせる世代をターゲットにした間取りを考えた。仕事重視、趣味重視、住まうヒトがより楽しく快適に暮らせる理想の空間を提案したい。



山形 雪乃

YAMAGATA, Yukino

石切巡遊物語 — 石切参道商店街の再生計画 —

Ishikiri excursion story: A revitalization plan for Ishikiri Sando Shopping Street



かつては活気があり賑わっていた石切参道商店街。小学生の放課後によく訪れていた石切神社、石切参道商店街は今や高齢化に伴いシャッター街化と成している。

老若男女問わず県外からも多くの人が訪れるにもかかわらず石切の魅力を伝えられないのはもったいない。そして、石切を知るきっかけになってもらいたい。そういう思いから、長い商店街において休憩の場となるカフェ、地元の方から観光の方まで幅広い利用を目的としたホテルを提案する。

シャッター街化した店舗の1階をそれぞれカフェとホテルにリノベーション。学生からサラリーマン、地元の人まで全ての人の利用を目的とするカフェ、木を基調とし居心地のいい落ち着いた空間に。

また、ホテルでは周囲の景観と異なりそれぞれ白と黒を基調としたモダンなつくりにすることで目立ちやすく、さらに疲れを癒すことができる空間に。

あの賑わいをもう一度。その思いとともに…。

山下 幸太
YAMASHITA, Kota



60歳からのプレイホーム 高齢者のための趣味と交流の場

好きなことで集まった人たちの輪が生まれ、新しい交流の場ができればよいと考えた。

そこで「高齢者のための娯楽施設」を提案する。

場所は生野区で、大阪府の中でも高齢者が多く住む住宅地である。

食事、読書、映画鑑賞、カラオケ、楽器の演奏、ガーデニングなど、高齢者に人気の趣味を集め、それらができる部屋をそれぞれ設けた。

外観は、カラオケと映画館以外は中が見えるようなガラス張りで、店の情報を開示することで、安心して中に入れるようにした。インテリアは高齢者に人気の和モダンで、主に落ち着いた木材などを使い、壁や照明はオレンジなどで温かみのある空間を演出した。

段差はなく、車いす利用者にとって不安要素であるスロープは設けず、フロア移動の際はエレベーターとエスカレーターを使うようにした。また店内のテーブルや椅子などの高さを車椅子に合わせて、歩ける人と車椅子利用者間の身体的バリア、また心のバリアをなくし、誰もが快適に過ごせることを目指した。



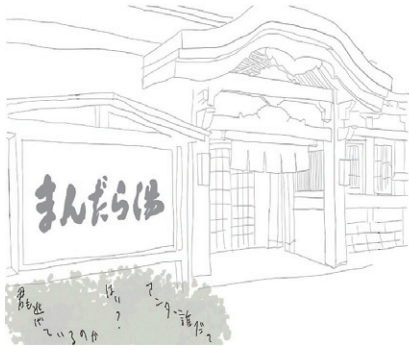
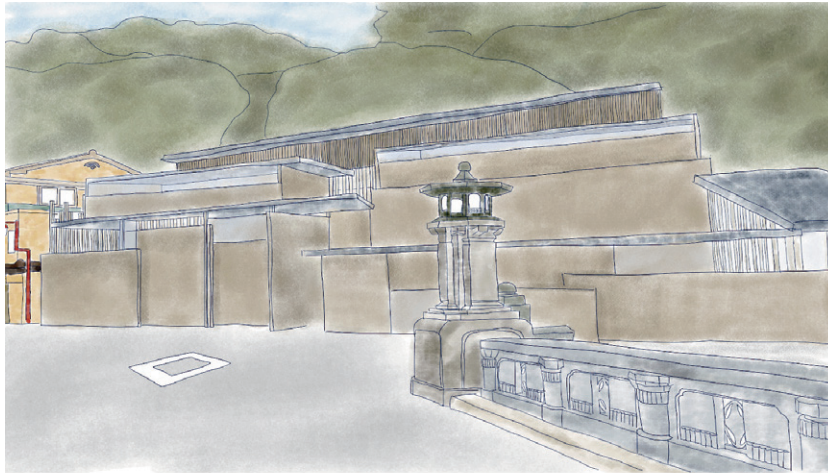
李 悠衣

Lee, Yui



湯に満ちる言の葉 城崎温泉の改装計画

Filling the water with leaves of words: A renovation plan for Kinosaki hot spring



1300年という歴史を持つ城崎温泉。そこには七つの外湯が存在する。外湯めぐりが名物となっており、かつては療養するために長期滞在する人もいた。しかし、現在は観光地として訪れる人も多く、楽しみ方が変化しているように感じる。そこで、昔ながらの雰囲気を残しながらも新しい楽しみ方が出来るような一の湯の建て替え、城崎を舞台に描かれた「城崎裁判」のセリフの展示を街中に行う。今までの楽しみ方に加えた新たな城崎温泉の雰囲気を幅広い世代の人に楽しんでもらいたい。

若杉 理子

WAKASUGI, Riko

